

# 与論島の活性化計画

## 与論島 活性化計画

わたしは大分県出身で鹿児島に来るまで「与論島」という言葉を聞いたことがなかった。行ってみるととても良いところだし観光資源もあるのにどうして知らなかったのだろう という疑問が生じたので地元大分の友人30人に「与論島」という島を知っているかというアンケートに協力してもらった。結果、

「与論島」を知っている	7人
「与論島」を知らない	23人
与論島に行ったことがある (知っていると答えた人のみ回答)	0人

「与論島」という言葉を聞いたことがある と答えた人にはどういう場面で聞いたのかも答えてもらったところ、全員が「テレビで聞いた」と答えた。特に台風などの気象情報の場合が多かった。30人という少ない人数ではあったが、約8割の人が「与論島」という言葉を聞いたことがなかったということが分かった。また、30人全員が訪れたことがない と答えた。

この結果から、与論島の若者への知名度を上げることが観光客を増やすことにもつながると考えた。

例えば、与論島のCMを流すとか、ドラマの撮影を誘致するとか メディアの力を利用するというのもいいと思う。

または、オールシーズン大量にいる沖縄の観光客を取り込む という作戦もあるのではないかと考える。沖縄は全国各地から観光客が集まる。沖縄と与論島は目と鼻の先なので沖縄から日帰りで与論島に遊びに行くということも十分に可能である。例えば沖縄のツアーの一日に与論島を組み込むとか。キャッチコピーは「ちょっと与論島ってきます。」とにかく気軽に行ける ということをアピールすることが、沖縄の観光客の足を与論島へ向けさせることになるのではないだろうか。一度与論島へ行ってみると島の良さもわかるので、また行きたいと思いつつも訪れてくれるリピーターの獲得にもつながると思う。

くわえて、わたしが与論島へ行って「すごくいい」と感じたのは自転車があれば島中どこでも行けるという点である。ただ、坂道もかなりあるため電動自転車があるのが最もよいのではないかと考える。目的がなくても、サトウキビ畑のなかを自転車で駆け抜けるだけで日常とは全く別の世界に来たことが実感できてとても気持ちいいものだ。自転車で島を一周できるということはちいさい島だからこそその魅力だと思う。

また、タカラトミーとコラボレーションしたという「人生ゲームヨロン」をもっとひろくアピールした方がいいと感じた。若者が食いつきそうな企画だし、実際私もすごくやってみたく感じた。この企画の知名度を上げるためには宣伝することが一番だと思う。特に若い世代へ向けての宣伝の場合、SNSでの宣伝は効果的であると考えた。そこで、試しにTwitterで「人生ゲームヨロン」と検索してみた。すると、見つかったのはたった一件の呟きのみだった。若い世代のSNSの普及率が大変高くなっている現代、SNSで島の魅力を発信することも知名度を上げること、ひいては観光客を増やすことに大いに役に立つのではないかと考える。

